

## (参考)

用語（表現）	用語の解説
あんきよ 暗渠	覆いをしたり地下に設け、外から見えないようになっている水路のこと。
あんていききょうきゅう 安定供給システム	「国有林材の安定供給システムによる販売」のこと。間伐に伴い生産された間伐材等について、国産材需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む製材工場や合板工場等と協定を締結し、それに基づいて国有林材を安定的に供給すること。
いっかんさきぎょう 一貫作業システム	造林コストの省力化を目的として、伐採から植栽までを同時に契約して行う取組のこと。
うらやましゅつちやうしんだん 裏山出張診断	土木、森林の専門的な知識を有する方々を現地に派遣し、住民とともに集落裏山を点検・診断し、危険な箇所やその状況を把握することにより、異常気象時の避難や日ごろの防災に対する地域住民の意識を高めることを目的に鳥取県が実施している取組のこと。
おくちせきりやうさんち ちたい 奥地脊梁山地（地帯）	ある地域の背骨に相当するような山地で、分水界となるもの。
かいぼつ 皆伐	一定範囲の樹木を一時に全部又は大部分伐採する主伐の一種。
かくたいぞうりん 拡大造林	天然林や薪炭林であった森林を針葉樹の人工林に更新すること。
かこ わな 囲い罠	餌などで檻内に誘引し捕獲するワナのこと。箱罠は、移動や設置は比較的楽ですが、1回あたりの捕獲数は、通常1頭ですが、囲い罠は、設置の費用や労力はかかりますが、面積が広いぶん、工夫次第で1回にたくさんの獲物を捕獲することが可能です。
かせんしゅうざい 架線集材	集材方法の1つで、空中に張ったワイヤーロープを使って、伐採した木を林道端等に集める方法のこと。
かやぶかし 茅葺師	茅葺屋根の葺き替えを行う職人のこと。茅とは、「ススキ、チガヤ、スゲなど」の総称であり、一度、屋根を葺くと20～30年ほど保つことができます。
かんこうぞうりんち 官行造林地	旧公有林野等官行造林法（大正9年法律第7号）に基づき、国が公有地又は私有地に造林をした分収林であり、林野庁が管理を行っているもの。
こくゆうりんやじぎょうぎやうむけんきゅうはっぴやうかい 国有林野事業業務研究発表会	全国の森林管理局の技術開発成果などについて、関係者への情報提供やそれらの取組を広く普及を図るために林野庁で開催されている発表会のこと。
くくり わな くくり罠	鳥獣の通り道等へ設置し、鳥獣の足首をワイヤーでくくる仕掛けのワナのこと。
くん じょう くん蒸	薬剤等でいぶして殺虫すること。
けいかんこう 溪間工	溪流に堆積した土砂が下流へ流出するのを防ぐとともに、溪流が侵食されるのを防止するための工事のこと。
けいちやうすぎ 慶長杉	慶長年間に鳥取県八頭郡智頭町内に植林されたスギ人工林のこと。

コアゾーン・バッファゾーン	世界遺産のコアゾーンとは、核心地帯のこと。バッファゾーンはコアゾーンの緩衝地帯のこと。
航空レーザー測量	航空機に搭載したレーザ測距装置等を使用して地表を水平方向の座標(x,y)、高さ(z)の三次元で計測する方法のこと。
個体数管理	地方自治体や被害対策協議会等によるシカ等の計画的な捕獲や捕獲技術者の養成等及び罠や銃器による捕獲等の技術開発により、鳥獣を頭数管理すること。
コンテナ苗 (マルチキャピティコンテナ苗)	マルチキャピティコンテナ（根巻き防止などの工夫が施されたプラスチック製の苗木生産用容器）で生育した苗木のこと。
作業システム（架線系）	集材にスイングヤードを組み入れた作業システムのこと。路網から70～100m程度以内の範囲が採算ベースで効率的な集材が可能であるといわれており、高密度路網の開設ができない急傾斜地を中心に多数の導入事例がみられる。
作業システム（車両系）	路網から伐倒木を機械で直接取る作業システムのこと。機械で木寄せできる範囲は路網の両脇20数m（伐倒木の長さとベースマシンのアームの長さの合計）であるため、車両系の作業においては、高密度の路網が必要となる。
砂防事業	豪雨時に荒廃した山地から流出する土砂による被害を防止するため、砂防指定地に指定し砂防えん堤などを整備する事業のこと。
山腹工	荒廃した山の斜面の崩壊や浸食を防いだり、植生を形成させることで、防災機能の高い森林を形成するための工事のこと。
GPSテレメトリー調査	野生動物に発信機（GPS）を取り付け、出力される電波を受信し、各個体の行動圏や生態等を調査するもの。
市町村森林整備計画	地域森林計画の対象となる民有林が所在する市町村が、森林・林業関連施策の方向や森林所有者等が行う伐採・造林・間伐などの森林施業の指針などを定める計画のこと。
樹幹注入	健康な樹木に穴を開け、病害虫等の侵入を防ぐ薬剤を注入し、被害を予防する方法のこと。
主伐	次の世代の森林の造成を伴う森林の一部又は全部の伐採。
心材・辺材	心材は樹木の材の中心に近い部分のこと。辺材は樹木の材のうち周辺部を占める部分のこと。スギ丸太の木口では、内側の褐色の部分心材、その周囲の淡色の部分が辺材です。
森林共同施業団地	地域における施業集約化の取組を支援するため、民有林と連携することで事業の効率化や低コスト化が図られる区域について、民有林野と連結した路網の整備と相互利用の推進、計画的な間伐等の実施、民有林材との協調出荷などに取り組む団地（森林）のこと。
森林作業道	特定の者が森林施業のために利用するものであり、主として林業機械の走行を予定するもの。
森林GIS	Geographic Information System（地理情報システム）の略で、地図や空中写真等の森林の位置や形状に関する図面情報と、林種や林齢等の文字・数値情報を、コンピューター上で総合的に管理、分析、処理するシステム。

しんりん 森林セラピー	医学的なエビデンス（証拠）に裏付けされた森林浴効果により、森林環境を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防を行うことを目指すもの。
しんりん 森林マスタープラン	京都府綾部市が策定した持続可能な林業の基盤づくりなどを目的とした構想のこと。
すいげん 水源かん養（機能）	森林に降った雨や雪などの降水が、土壌に浸透（貯留）し、河川へ流れ込む量を平準化して洪水を緩和したり、雨水が森林土壌を通過することにより、水質を浄化している働きのこと。
ストックポイント	林業機械（2トン積程度の小型トラックなど）により搬出した木材を集積する中間土場のこと。中間土場で集積した木材は、大型トラックに積替えられ市場等へ搬出することで、運搬コスト等の削減が図られる。
ストックヤード	一時的に木質バイオマス資材を貯留するための集積場のこと。
スリットダム	動物や魚類の行動範囲を阻害しないよう、通水部にくし（櫛）状のスリットや、鋼管の格子状構造物を設けた治山施設のこと。
ぜつめつぎくしゅ 絶滅危惧種	絶滅の危機にある生物種のこと。 絶滅の危機に瀕している種 → 絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機が増大している種 → 絶滅危惧Ⅱ類
そざいせいさん 素材生産	樹木を伐採し、枝葉や梢端部分を取り除き、丸太に加工する工程のこと。
そざいはんばい 素材販売	樹木を伐採し、丸太にして販売すること。
ゾーニング	森林の管理経営を行ううえで、それぞれの森林が重点的に発揮させるべき機能を区分したもの。
ちさんじぎょう 治山事業	保安林を守り育てることによって、山崩れなどの山地災害から住民の生命・財産を守ることや森林が持つ水源のかん養機能を高めたり、さらには緑豊かな生活環境の保全・形成等を行う事業のこと。
ちようじゅうひがいたいさくぎじゆつこうどかじつしやうじぎょう 鳥獣被害対策技術高度化実証事業	シカ被害に対する効果的な打開策を探るべく、全国の国有林野にモデル地域を設定し、様々な防除技術を組み合わせた取組の実証とそれらに先立つ調査事業のこと。
てい 低コスト造林（林業）	従来造林作業と比べ、造林・保育の省略化等によりコスト削減を図る造林方法のこと。
てんねんかしゆこうしん 天然下種更新	伐採跡地等において、主として天然の力によって次の世代の樹木を発生させること。自然に落ちた種子が発芽して成長する場合と樹木の根株からの発芽（萌芽）等により成長する場合がある。必要に応じて、ササ類の除去や発芽後の本数調整等の人手を補助的に加えることもある。
なめら 滑マツ	滑山国有林に自生する樹齢200年以上のアカマツ大径材のこと。材の色合いが良く通直な銘木として昭和43年まで生産され、皇居新宮殿の内装材や錦帯橋の脚材へ使用。
フォレスター	森林総合監理士のこと。森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村等への技術的支援を的確に実施する人材のこと。

<p>ふくそうりんせきよう ゆうどう ぼつ 複層林施業（誘導伐）</p>	<p>複層林施業は、森林の木を伐採するとき、一度に全部伐らずに必要な分だけ抜き伐りし、その跡に若い木を育て、年齢や樹種の違う木で構成される複層状態の森林をつくる施業のこと。誘導伐は、こうした施業へ誘導するための伐採のこと。</p>
<p>プロット</p>	<p>対象地域に設定した点（調査地点）のこと。</p>
<p>ほんすうちょうせいぼつ 本数調整伐</p>	<p>治山事業において行なわれる伐採の名称であり、当該保安林機能の維持増進を主目的とした伐採のこと。</p>
<p>まるたぐみどめこう 丸太組土留工</p>	<p>土木用資材としては需要の少ない直径20cm程度の丸太（間伐材等）を組合わせ、丸太間に土砂等を詰めた簡易な土留工のこと。土留工とは、土砂の移動を防ぎ斜面を安定させるほか、他の工作物の基礎として用いる工事のこと。</p>
<p>みんゆうりんちよつかつちさんじぎよう 民有林直轄治山事業</p>	<p>民有林内で大規模な山地崩壊が発生し、その復旧工事に高度な技術が必要な個所等において、都道府県から要請を受けて国が行う事業のこと。</p>
<p>もうきんるい 猛禽類</p>	<p>タカ目とフクロウ目の鳥の総称。鉤(かぎ)状の鋭いくちばしと鉤爪をもち、小動物や他の鳥を捕食する。</p>
<p>もくしつ しげん 木質バイオマス資源</p>	<p>木材からなる「再生可能な生物由来の有機性資源」のことであり、主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やのこ屑などのほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝などの種類のこと。</p>
<p>もとかわし 原皮師</p>	<p>檜皮採取の職人のこと。</p>
<p>モバイルカリング</p>	<p>銃を用いた管理型捕獲の手法であり、林道脇に複数の給餌場所を設置し、誘引したニホンジカを車両で移動（モバイル）しながら、組織的かつ計画的な個体数管理（カリング）を行うこと。</p>
<p>りんぎようさんしゆつがく 林業算出額</p>	<p>国内における木材、栽培きのこ類、薪炭等林業生産活動による生産額の合計のこと。</p>
<p>りんぎようせんようどう 林業専用道</p>	<p>主として特定の者が森林施業のために利用する恒久的公共施設であり、幹線となる林道を補完し、森林作業道と組み合わせて、森林施業の用に供する道をいい、普通自動車や林業用車両（大型ホイールタイプフォワード等）の輸送能力に応じた必要最小限の規格・構造を持つことにより、森林作業道の機能を木材輸送の観点から強化・補完するもの。</p>
<p>りんぎようふんきゆうかつどうほうこくかい 林業普及活動報告会</p>	<p>林業普及指導職員の資質の向上と普及指導活動の充実・強化を図ることを目的に、林業普及活動の中から主な取組内容について報告を行う県主催の報告会のこと。</p>
<p>りんしやう 林床</p>	<p>森林の中の地表面のこと。</p>
<p>れつじやうかんぼつ 列状間伐</p>	<p>間伐の方法の一つ。作業の低コスト化等を目的に、伐採や搬出に都合の良いように一定の間隔で列状に間伐を行う方法。</p>